

JACLaP WIRE No.60 (2003年7月9日発行)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.60 です。

===== 目次 =====

【お知らせ】

- 【1】 会員動向 (2003年7月3日 現在数 653名, 専門医 446名)
- 【2】 第21回日本臨床検査専門医会振興会セミナー開催のお知らせ
- 【3】 平成16・17年度 日本臨床検査専門医会会長・監事選挙について
- 【4】 会費納入について

【最新トピックス】

- 【1】 新しいビタミンの発見
- 【2】 サル痘の感染がアメリカで流行
- 【3】 サル痘の臨床像 PowerPoint版プレゼンテーション資料邦訳版公開のお知らせ

【MTJ (The Medical & Test Journal) 6月1日号から】

中医協、再診料見直し見送り
厚労省検討会 乳幼児の「神経芽細胞腫」検査見直しへ初会合
施設協 新会長に三村事務局長を選出
日本医学検査学会(埼玉学会)開かれる
厚労省 SARS対策で医療従事者の採血に注意喚起
リビングプロシード マツモトキヨシ通じて血液検査キットを発売
2002年度クレコンレポート 検査薬の出荷額は2816億円、1%減少

【MTJ (The Medical & Test Journal) 6月11日号から】

文科・厚労両省のSARS研究班合同会議開催
日本輸血学会、国立大学マネジメント改革提言で議論
検査技師の在り方等検討会 中間とりまとめを公表

【MTJ (The Medical & Test Journal) 6月21日号から】

全国国立大学病院検査部会議 改革への動き加速化で一致
国公立大学病院検査部長会議 内規作りに着手へ
日本臨床検査自動化学会第35回大会 9月18、19日 横浜で開催
臨薬卸総会 機器リースシステム販売適正化を側面から協力

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-1】

会員動向 (2003年7月3日 現在数 653名, 専門医 446名)

所属変更

- 菅野 治重：旧 千葉大学医学部
新 高根病院
- 足立 哲也：旧 秋田大学医学部臨床検査医学
新 帝京大学医学部内科
- 振興会会員 株式会社ダイアマトロン
社名変更 株式会社三菱化学ヤトロン（7/1 より）
- 振興会会員 アポットジャパン株式会社
住所変更 〒151-8563 渋谷区千駄ヶ谷 5-25-5（6/15 より）
- 振興会会員 東芝ラボメデイクス株式会社
社名変更 東芝ラボメデイカル株式会社
住所変更 東京都文京区本郷 3-40-11 柏屋ビル 8 階
- 益子 貴臣：旧 北里大学医学部臨床検査診断学
新 伊勢原協同病院 内科
- 中村 良子：旧 昭和大学藤が丘病院臨床病理
新 量子医学研究所
- 崎田 健一：旧 埼玉医科大学病理学教室
退職
- 沖野 毅：旧 医療法人三世会河内総合病院
新 大阪警察病院 臨床病理科
- 西野 道夫：旧 広愛会第二リハビリテーション病院
新 群馬大学医学部病態検査医学
- 角田 圭子：旧 和歌山県立医科大学臨床検査医学
新 一成会 木村病院

訃報：

坪倉 篤雄 先生 5月1日 ご逝去

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-2】第 21 回日本臨床検査専門医会振興会セミナー開催のお知らせ
以下の日程、演題で開催する予定です。会員の皆様方もふるってご参加ください。

講演予定：

会場：東京ガーデンパレス

日時：平成 15 年 7 月 11 日、午後 2 時～午後 5 時

予定演題：

包括医療（DPC）に向けた臨床検査の対応

－どうなる、どうする臨床検査－

演者：1) 特定機能病院の立場から； 信州大学 勝山 努 教授

昭和大学 高木 康 教授

2) 臨床検査技師の立場から； 北福島医療センター 大河内 芳美 氏

3) 厚生労働省の立場から； 厚生労働省保険局医療課

企画官 矢島 鉄也 氏

午後 5 時 30 分

日本臨床検査専門医会 振興会 情報交換会

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-3】平成 16・17 年度 日本臨床検査専門医会会長・監事選挙について
平成 16・17 年度 日本臨床検査専門医会会長・監事選挙を行っております。
投票用紙、会長候補者名簿、監事被選挙人名簿はすでにお手元に届いていると思
います。

7 月 12 日必着で締め切りです。

かならず投票を御願いたします。

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-4】会費納入について

今年度も半期が終了致しました。

今年度会費の振り込みがまだの会員の先生は会費の振り込みを御願いたします。

支払い状況が不明の先生は FAX、または E-mail で事務局までお問い合わせください。

===== JACLaP WIRE =====

【最新トピックス-1】新しいビタミンの発見

1910 年に最初のビタミン(ビタミン B1)が鈴木梅太郎博士によって発見されて以来、
1948 年に見つかったビタミン B12 まで、現在、13 種類のビタミンがある。今回見つ
けた新種のビタミンは、「ピロロキノリンキノン(PQQ)」と呼ばれる物質で、日本の理
化学研究所の研究者が、55 年ぶりに新種のビタミンとして世界で初めて証明した。こ
の PQQ はお茶、ピーマン、納豆、野菜、肉類に含まれる水溶性のビタミン B 群に属し、
健康に不可欠な物質である。ビタミンは、健康を維持する上で必須の物質で、体内で
作り出せないために食物から摂取しなければならない。ビタミンは体内において、特
定の酵素と結合して酵素が正常に働けるように補助する。今後、臨床的応用につ
いての研究が進むと思われる。

(獨協医大越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【最新トピックス-2】サル痘の感染がアメリカで流行

サル痘(Monkeypox)は天然痘によく似ているサルの病気で、ヒトに感染する疾患で、
1958 年に初めてウイルスが分離された。米疾病対策センター(CDC)によると、6 月 13 日
の時点で米国の米中西部のウィスコンシン、イリノイ、インディアナの 3 州で流行し、
感染者が 12 例、感染の疑いが 54 例で、そのうち 14 例が入院している。死亡者はまだで
ていない。感染源はペットとして飼っているプレーリードッグに噛まれ感染したとみ
られる。

サル痘の感染力は天然痘より弱く症状も軽いが、人間が感染した場合、発熱、悪
寒、発疹などの症状がみられる。これまで 1970~1971 年と 1996~1997 年に中央・西ア
フリカでヒトへの感染例が報告されている。1996 年のコンゴ共和国での流行では 71 例

の患者と6例の死亡例が報告されている。

(獨協医大越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【最新トピックス-3】

サル痘の臨床像 PowerPoint 版プレゼンテーション資料邦訳版公開のお知らせ
上記ウイコンシン州のマーシュフィールド病院 Dr. Reed に許可を戴いて、サル痘の臨床像の写真ならびに経過を収載した PowerPoint 版プレゼンテーション資料邦訳版を作成し日本環境感染学会のホームページ(<http://www.kankyokansen.org/>)にて公開しています。教育等にご活用下さい。

編集主幹 満田年宏

===== JACLaP WIRE =====

【MTJ (The Medical & Test Journal) 6月1日号から】

中医協、再診料見直しで尿検査一部包括案見送り

6月1日から再診料(外来診療料含む)の月内逓減制が撤廃される。5月21日の中央社会保険医療協議会総会で決定したものだ。議論の過程で再診料(200床未満および診療所)の1点上積みする方法として厚生労働省は、尿中一般物質定性半定量検査の包括化案を提案したが、最終的に中医協は、包括化案を見送った。外科系学会社会保険委員会連合は5月26日、総会を行い、出月康夫会長は「議論のない包括化は絶対に容認できない」と述べ、今後、反証できる根拠をまとめていくことが必要との見解を表明した。

厚労省検討会 乳幼児の「神経芽細胞腫」検査見直しへ初会合

厚生労働省雇用均等児童家庭局は5月28日、「神経芽細胞腫マススクリーニング検査のあり方に関する検討会」(座長=久道茂・宮城県病院事業管理者)の初会合を開いた。検討会は、小児がんのひとつとされる「神経芽細胞腫」の検査の有効性を検証するために設置された。早期発見・治療を目的として、生後6~7か月の乳幼児を対象に1985年以来約20年間にわたって実施してきた検査事業だが、最近の海外の調査研究で、治療しなくてもかなりの頻度で自然治癒しているとの報告があることから、行政として同事業の見直しの検討に踏み切った。

施設協 新会長に三村事務局長を選出

全国臨床検査技師教育施設協議会の総会が5月19日、都内で開かれ、新会長に三村邦裕事務局長(東洋公衆衛生学院)を選出した。北村会長の勇退を受け三村氏が立候補、対立候補がなかったため信任投票が行われ、有効投票数69校中68校の信任をうけ新会長に就任することが決まったもの。北村氏は顧問となる。三村新会長は、「次回検査点数の改定など検査界をめぐる課題は山積している。施設協の会員施設は、国立、公立、私立と経営母体に違いはあっても優秀な人材育成をしていきたいとする方向は一緒だ」とし、会員の結束と協力を求めた。

日本医学検査学会（埼玉学会）開かれる

第52回日本医学検査学会（蒲池正次学会長：防衛医科大学校病院）は5月16、17の2日間、埼玉県のスーパースターアリーナで開かれた。16日の開会式では、蒲池学会長、岩田会長が医療制度改革が進む中で開かれた今回の埼玉学会の意義などを述べた。なかでも今学会を担当した埼玉県臨技を強力にサポートしたのは、ホンダの科学技術を結集して開発した人間型ロボット「アシモ」と自衛隊音楽隊。彩の国・埼玉の文化の一端を披露した。

厚労省 SARS対策で医療従事者の採血に注意喚起

厚生労働省SARS対策本部事務局は5月20日付で、重症急性呼吸器症候群（SARS）に対する採血時の留意点について、日本赤十字社など各関係団体に対し通知した（医薬血発第0520004号）。採血時の輸入感染症対策をめくり、厚労省は今年の2月に採血希望者に対する問診の強化を呼びかける通知を出したが、SARSに感染した台湾人医師が来日した問題で、医療従事者による2次感染の危険性の高さが露呈したことから、SARS患者と接触する機会が多い医療従事者への対応をさらに強化した。

リビングプロシード マツモトキヨシを通じて血液検査キットを発売

フジサンケイグループのプロモーション会社「リビングプロシード」は5月22日から、ドラッグストア最大手マツモトキヨシ（全国565店）を通じて血液検査キット「デメカル・ヘルスサポート」を発売した。通常健康診断には含まれない前立腺がんやHIV、性感染症などを1滴の血液から検査できるのが特徴。

2002年度クレコンレポート 検査薬の出荷額は2816億円、1%減少

2002年度（平成14年度）の臨床検査薬の市場末端規模（卸体外診断薬販売額+RI協会取扱額+直販額）は3211億円（体内診断薬のX線造影剤1134億円除く）、メーカーおよび販売元出荷額は2816億円だった。前年度調査のメーカーおよび販売元出荷額2842億円を約1%下回った。2816億円のうち80.1%は卸経由、18.4%がRI協会経由、1.5%が直販方式で、それぞれ末端市場に供給されている。これは、クレコンリサーチ&コンサルティングが1次卸、医療機関などを対象に実施した2001年4月～02年3月の臨床検査薬流通調査の結果をまとめたもの。

===== JACLAP WIRE =====

【MTJ（The Medical & Test Journal）6月11日号から】

文科・厚労両省のSARS研究班合同会議開催

文部科学省の「重症急性呼吸器症候群（SARS）の診断及び検査手法に関する緊急調査研究班」と、厚生労働科学研究の特別研究事業「SARSに関する緊急研究班」は5月29日、国立感染症研究所で合同班会議を開いた。同会議は、SARSの緊急対策として、1年間を研究期間として立ち上げた複数の研究班が、互いに今後の研究目的を確認するために開催したもの。この日の会議では、診断方法やワクチンの開発を担う文科省の8班と、院内感染対策や標準的治療法の確立を担う厚労省の8班の計16

班が一堂に会し、一定の研究結果が得られた場合は研究期間内であっても随時報告して、国内のSARS対策に反映させていく方針を確認した。

日本輸血学会、国立大学マネジメント改革提言で議論

坂口力厚生労働大臣は5月31日、北九州市で開かれた第51回日本輸血学会総会で公開特別講演を行い、日本輸血学会が文部科学省に対して昨年からの国立大学医学部附属病院長会議の「国立大学付属病院の医療提供機能強化を目指したマネジメント改革（提言）」の白紙撤回を求めているなどの一連の動きに対して、坂口厚労相は、「大学病院の輸血事故は、いまもあとをたたない。基礎的なことをきちんと教育されているのか。専任者がいて指導できる体制が、立派な（事故を起こさない）医師を育てる」との認識を示した。文部科学相と今後も継続して話し合いをもち、対応していく考えを示した。

検査技師の在り方等検討会 中間とりまとめを公表

厚生労働省の「臨床検査技師、衛生検査技師に関する在り方等検討会」は6月5日、中間とりまとめを公表した。とりまとめでは、3月31日の最終検討会での意見として、「検査技師は臨床検査医と協調して検査を行うことを明確にすべきであり、その意味で「指導監督」の表現も再考すべきとの意見があった」が盛り込まれた。さらに検体検査業務について、3月31日の中間とりまとめ案を修正し、検体検査の重要性が認識されるよう、よりわかりやすい表現になった。

===== JACLAP WIRE =====

【MTJ（The Medical & Test Journal）6月21日号から】

全国国立大学病院検査部会議 改革への動き加速化で一致

全国国立大学病院検査部会議がこのほど沖縄県で開かれ、来春の法人化に対応するため検査部として独自の改革を推進していくことを確認した。国立大学病院では、すでに診療支援部設置構想が具体化している施設もあるが、同検査部会議としては改革への動きを加速させる方向で一致した。

国公立大学病院検査部長会議 内規作りに着手へ

国公立大学病院検査部長会議（代表世話人：中原一彦東大教授）は、内規作りに着手する方針だ。同会議は、昨年の国公立大学病院検査部長会議で組織基盤を強化し、統一的な要望活動などが展開できるようにすることを決定した。その決定をうけ世話人会として、中原代表、野村千葉大学教授、渡辺慶応大学教授、五味昭和大学教授、吉田福島県立医科大学教授の5人で構成している。中原代表世話人は、「この会議では、大学病院に共通に抱える可能性の高い課題、たとえばDPCに基づく検査報酬の考え方、事務局機能の充実などが喫緊の課題だ」と指摘し、早急に基盤強化を図っていきたいと述べた。

日本臨床検査自動化学会第 35 回大会 9 月 18、19 日 横浜で開催

日本臨床検査自動化学会第 35 回大会（家入蒼生夫大会長）が 9 月 18、19 の両日、横浜市のパシフィコ横浜で開かれる。テーマは「明日の医療を支える検査の自動化」。特別講演は、「マイクロチップと手のひらサイズの検査室」と題して北森武彦氏（東京大学大学院工学系研究科）、特別企画は「事例に学ぶ臨床検査の精度保証」、さらにシンポジウムは「画像処理システムの進歩と検査の自動化」「血小板検査の進歩」「チーム医療を実践する - NST（栄養サポートチーム）の一員として」「薬剤耐性菌検出における自動細菌検査装置の役割」の 4 題が予定されている。また、展示会は、第 50 回日本臨床検査医学会総会と合同で 9 月 17～19 日まで行われる。昨年と同数の 93 社が出展する予定だ。

臨薬卸総会 機器リースシステム販売適正化を側面から協力

日本臨床検査薬卸協議会は 6 月 5 日、総会を開き平成 14 年度の事業報告、15 年度事業計画案が承認された。特に 15 年度事業計画として、前年度から継続的に行われている日本臨床検査薬協会のプロモーションコード第 5 項「機器リースシステム販売」契約書の周知徹底について、臨薬卸としても側面から協力していくことが、適正な流通の合理化の実現に必要であるとされた。

=====

JACLaP WIRE, No.60 (2003 年 7 月 9 日発行)

発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

記事・購読（配信）・広告等に関するお問い合わせ先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 横浜市立大学医学部臨床検査部医局内

e-mail：jaclap_wire@yahoo.co.jp

TEL:045-787-2721 FAX:045-786-0392

日本臨床検査専門医会ホームページ：<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー：<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

1. 氏名, 2. 現行登録アドレスと 3. 変更希望メールアドレスを添え

て jaclap_wire@yahoo.co.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。
